

最優秀賞

神奈川新聞社長賞

手話教室の小松さん

座間市立ひばりが丘小学校

六年 湯川 芽衣

私は最近、手話教室に通い始めました。その先生は耳がきこえない小松さんという方です。「手話、やったことないから、先生が手話で何を言っているのか分からない。どうしよう。」と不安でいっぱいでしたが、ていねいに通訳してくれる先生もいて、その方が、小松さんが何を伝えているのか、声にして教えてくれます。

私は、手話教室に通う前は「障害をもっている人ってかわいそうだ」という考えがありました。ですが、小松さんからは、そんなことが一ミリも伝わってきません。むしろ、とても元気で明るく「私は幸せだ。」とおっしゃるくらいです。そして、いつも笑顔です。

もう一つ、想像とちがうことがあります。手話教室に通うまで、耳が聞こえない人に会

ったことがなかった私は、「耳がきこえなかったら顔がムスツとしているのだろう」と勝手に思っていました。ですが、想像と全くちがいで、小松さんはとても表情豊かで面白い人です。

小松さんから「手話で一番大切なのは、表情だよ。がんばろうね。」と言われました。小松さんは手だけではなく、顔や上半身の動きを上手に交えて、私達に語りかけてくれます。そして、私の目を優しく見つめながら、私が伝えたいことを聞いてくれます。小松さんと会話をしているとき、優しい気持ちになります。

私は、声にしなくても、表情から気持ちや伝えられること、しっかりと目を見てコミュニケーションをとると、気持ちに通じ合うことを小松さんから教わった気がします。

今は色々な手段でコミュニケーションがとれる時代です。画面だけのやりとりだけでなく、目を見て、相手を思いながらのコミュニケーションを大切にしていきたいです。